

(様式1) 学校評価 <評価:A(1・2) B(3) C(4・5) 数字はアンケート結果を加味する場合>

項 目		重点目標 (○:市の重点目標 ◇:学校の重点目標)	キーワード	取組状況・成果・課題	評価	改善策	学校運営協議会委員(評価者)の 意見等
学校運営	教育課程	○特色のある教育課程を工夫するとともに、PDCAサイクルを意識し、評価改善に努める。 ◇授業時数の確保に努めると共に、学習指導要領の趣旨に沿った授業を実践する。	カリキュラムマネジメント PDCAサイクル 社会に開かれた教育課程 教科等横断的な視点	・学習習慣の向上のために、朝の読書「さわやかタイム」(毎朝)と帰りの会後の補充学習「チャレンジタイム」(月2回)を設定した。 ・学校評価をもとに改善会議実施した。各部会では、いつまでに、何を、どのように改善するのか明確にして協議した。 ・週教育計画をもとに授業時数の確保に努めた。 ・地域の人的、物的資源を活用した教育活動の充実を図る。	B	・総合的な学習の時間を中心に、地域の人的、物的資源を活用した教育活動の充実を図る。必要に応じて、教科、領域を横断的に扱い、地域や関係諸団体と連携しながら学習を進める。 ・今後も週教育計画をもとに授業の量的、質的管理を行う。 ・学校評価をもとに具体的な改善策を検討し、実践する。	・コロナ禍の中、人流等の制限があったが、感染対策を講じた上で、様々な活動を行うことはよいことだと思う。 ・改善会議を工夫している感じた。 ・生徒、教職員、地域のよりよい協働体制が構築されることを望む。
	組織運営	○校務のバランスを考えた人材配置に努める。 ◇校内における各種部会の活性化を図る。	適材適所 研修の充実 働き方改革	・専門性や継続性を考慮して組織の編制や人員の配置に取り組んだ。 ・協働体制で取り組めるよう情報機器を利用して課題や業務の共通理解を図った。 ・各種部会の開催を週時程に位置づけ、定期的に行った。 ・生徒と向き合う時間の確保のために業務改善を進める。	B	・校務システムを有効活用することにより業務の効率化を図る。 ・各種部会の連携を図る。組織間の連携をもとに、課題に組織的、一体的に取り組める体制づくりを目指す。 ・校内研修は、最優先課題を明確にして計画し、焦点化して実施する。	・深掘した授業にするには、専門の方を配置する必要がある人材確保を進めてほしい。 ・様々な取り組みをとおして「生徒と向き合う時間の確保」へ向けての業務改善が進むとよい。
	環境整備	○◇校内外の整理整頓、環境整備に努める。	施設利用 安全点検 教室配置	・大型ディスプレイを整備し、各学年フロアの教材室に配置した。タブレット端末使用時に効果的に活用できた。 ・安全点検を定期的に実施した。また、破損箇所等は速やかに修繕した。 ・学級減に伴う空き教室の有効活用について工夫改善を図る。	A	・多目的室にある用品等は、物置設置後に次第移動する。多目的室を個別学習室として活用する。 ・専門業者の点検が必要と思われる施設(防球ネットの支柱等)においては、関係機関と連携し管理を行うようにする。 ・定期的な安全点検を実施し、事故の未然防止に取り組む。	・多目的室を学習室に利用することにより、副次的な効果が表れると思う。 ・きめ細かい安全点検は防災の「いろはのい」である。 ・タブレット端末を利用した配信時に、学校側の設備の問題かどうかは不明であるが、音声が届き取りにくい場面があった。
	地域連携	○◇地域連携教員を要として、地域とともにある学校づくりに努める。	地域とともにある学校 コミュニティ・スクール 地域コーディネーター	・本校の今後の地域連携について地域コーディネーターと、共通理解を図った。 ・感染症の影響により、地域を活用した教育活動の実施が困難であった。 ・コミュニティスクールを基盤とし、地域との連携、協働を深めていく。	B	・次年度は、感染症対策を講じて、地域を活用した教育活動の再開を図る。 ・コミュニティスクールの熟議について、校内でも生徒主体で話し合いを行うなど、地域との連携や協働を深めていく。	・コロナの影響で活動の制約は仕方ないと思う。 ・地域人材活用を授業だけではなく、生徒、学校、地域の双方向の関わり合いに発展させる試みはよいと感じた。 ・コロナが落ち着いたら伝統文化の継承について学校教育でお願いしたい。
	学習指導・各教科等	○学ぶ意欲を引き出し、主体的に学ぶ児童生徒の育成に努める。 ◇自ら考え、課題を解決できる生徒を育成する。	主体的・対話的・深い学び	・ねらいを明確にし、ねらいに即した振り返りを行う授業の実践に努めた。 ・学ぶことに興味や関心を持たせるよう課題の提示の仕方を工夫した。 ・自力解決型授業の実践により、課題意識をもって授業に臨み、粘り強く学習に取り組む生徒が増えた。 ・感染症対策のため、グループ活動やコミュニケーション活動を控えてきた。	B	・「思考力、判断力、表現力等」の育成を図る。具体的には、様々な情報を基に自分の考えを形成し、文章や発話によって表現する活動や、互いの考えを適切に伝え合うことで、多様な考えを理解したり、集団としての考えを形成したりしていく学習過程を実践する。 ・効果的な家庭学習の方法について生徒と共有し、自主学習ノートの充実を図る。	・感染症対策で活動できないことが多かったと思う。 ・自主学習ノートの充実をさらに進めてほしいと思う。 ・このパンデミックを大きく捉えれば社会全体に否応なく「振り返り」の時間が強制的に与えられたとも言える。子供たちにとって「何が必要か」を地域を含めみんなで考える時期である。
知の教育	情報教育	○◇一人一台の情報端末の有効活用に努める。	プログラミング教育 情報活用能力	・コンピュータ、電子黒板、インターネット等、ICTを活用した授業の工夫・改善に取り組んだ。 ・調べ学習をしたり、デジタル教科書を使用するなど、タブレット端末を効果的に活用した。 ・情報モラルの指導を年間計画に位置づけて計画的に指導していく。 ・情報活用能力の向上を図る。	B	・情報モラルの育成については、生徒がネットトラブルに関わったり、巻き込まれたりしないようにルールやマナー、注意事項等を保護者会等で働きかけなど保護者との連携を図る。 ・情報活用能力については、教科等横断的な視点から各教科等の特質に応じた適切な学習場面で育成を図っていく。	・情報機器を駆使した授業では、便利さに流されないように保護者の理解と連携は必須と考える。 ・タブレット端末使用時に、その授業とは関連性のない検索を行わないように指導する必要がある。

	国際理解教育	○◇英語に触れ、世界を学ぶことで、豊かなコミュニケーション能力の育成に努める。	SDG's 異文化理解 英語コミュニケーション	・コミュニケーションを行う目的や場面、状況などを明確に設定し、言語活動を通して育成すべき資質・能力を生徒と共有に取り組んだ。 ・授業の実施に当たっては、ALTの活用に努めるなど、指導体制の充実に取り組んだ。 ・指導方法や課題設定を工夫することで、個に応じた指導を充実を図る。	B	・ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫するとともに、多様な指導方法や、学習の理解度に応じた課題設定を行うなど、個に応じた指導の充実を図る。 ・生徒の興味・関心を喚起することができるよう、様々な資料を意図的、計画的に掲示したり、視聴覚教材やインターネットを活用したりするなどの工夫を行う。	・学習形態の工夫は、よい取り組みだと思う。ぜひ、文法中心の授業でなく、英語コミュニケーションの生きた活動を進めてほしい ・英語教育は情報機器活用が効果的な分野であると考える。 ・SDG'sは深く考察していくと、「個に応じた教育」や「自立した人間形成」に役立つ。
心の教育	児童・生徒指導	○◇自己指導能力の育成を図り、課題を解決できる児童生徒の育成に努める。	いじめ 不登校 自己指導能力 キャリア教育	・いじめや不登校等、問題行動の対応について組織的に取り組み、関係機関と適宜連携を図りながら問題の解決に努めた。 ・生徒一人一人に、自己存在感や肯定感、有用感をもてるよう指導の工夫に取り組んだ。 ・Q-Uテストの結果分析について、外部講師による校内研修を行った。望ましい学級づくりの方策が確認できた。 ・不登校生徒や別室登校生徒へ個に応じた指導の充実を図る。	B	・不登校生徒に対して、全教職員共通理解のもと、きめ細かく柔軟に対応する。 ・魅力ある学校づくりに努めるなど、新たな不登校を生まないための取組を充実させていく。 ・生徒のよさを認め、尊重し、自尊感情を高める指導を行う。 ・「特別の教科道徳」や特別活動等との関連を図りながら、規範意識の育成を図る。	・いじめ問題は、個の問題ではなく全体で向き合う問題だと思う。 ・不登校はセンシティブなところがあり、一方、依存的な感もあり難しい。
	特別支援教育	○◇共生社会に向け、自分の意見を持ち、他者の意見を認め合う雰囲気づくりに努める。	インクルーシブ ユニバーサルデザイン 合理的配慮 自立活動	・個別の支援計画を作成し、教員全体で共通理解を図った。 ・個別的教育計画に基づき、一人一人に応じたきめ細かな指導に取り組んだ。 ・通常学級と特別支援学級の交流を推進した。 ・生徒の特性や心身の発達の段階等に応じた自立活動の設定に取り組む。	A	・全ての生徒が、安心感を高め、自信をもてるよう、学級内の温かい人間関係を育む。 ・個別的教育支援計画の作成・活用にあたっては、関係機関等と支援に関する必要な情報の共有を図る。	・实际社会に出たときのための難問のミニチュア版として、経験を踏むのが今だと思う。他者の意見を聞くことの大切さをもっと学ぶべきである。 ・ゆっくりと人間関係を築きながら生徒の安心感や自尊感情を育むことが肝要だと思う。
命の教育	健康教育	○自分の健康を管理し、健やかに生活する児童生徒の育成に努める。 ◇新型コロナウイルス感染症対策を継続して行う。	保健教育 保健管理	・性教育、薬物乱用防止に関する講演会等を実施した。 ・学校保健委員会は、生徒の実態や課題によりテーマを設定し、生徒の健康増進を図った。 ・健康チェックシートによる体調管理を継続して行うことにより、健康管理への意識が向上した。 ・感染症対策を継続して行う。	A	・手洗いや換気などの基本的な感染症対策を継続する。 ・保健体育科の授業や各種講演会等で習得した知識を日常生活において積極的に活用できるよう、自主的な実践力を育む。 ・講演会等においては、今後も、専門性を有する教職員や地域の専門家等に協力を依頼する。	・感染症対策にはチェックシートの活用は非常に有効だと思う。
	安全教育	○◇危機意識を高め、安全な生活について判断・実践できる児童生徒の育成に努める。	危機管理 生活・交通・災害安全	・交通安全教室や避難訓練を計画的に実施し、具体的な場面での危機管理意識を高めた。 ・感染症の影響で中止となった外部講師による救命講習について、担当教師が工夫して実施した。 ・危機管理マニュアル、個人情報取扱規定について職員間の共通理解を図った。 ・学区が広範囲に及ぶため、遠距離通学や一人下校になってしまう生徒への安全対策に配慮する。	A	・下校時刻は、地域の実情に合わせて細かく設定する。また、必要に応じて下校指導を適宜行う。 ・危険な状況を適切に判断し、回避するために最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」の育成が図られるよう避難訓練等を工夫し、防災教育の充実に取り組む。	・危険な場所の注意喚起がなされている。また、昨今の災害を見て、さらに意識を高める必要がある。 ・下校時の安全確保は地域にとっても重大な関心事である。地域連携が必要な領域だと思う。
	食に関する指導	○◇食への関心を高め、健康維持に励む児童生徒の育成に努める。	給食管理 アレルギー	・給食時に学校給食に使われている地場産物等の紹介など、食に関する校内放送を実施した。 ・希望献立のメニュー作成をとおして、給食への関心を高めた。 ・食物アレルギーについての情報の共有化や事故発生時の組織的な対応に取り組む。 ・朝食欠食、偏食傾向の生徒への相談や指導体制の充実を図る。	B	・食物アレルギー対応については、管理マニュアル等を確認するとともに、関係機関等と連携を図りながら適切な対応に取り組む。 ・朝食欠食、偏食傾向に対しては、保護者と連携しながら、個別の事情に応じた相談や指導を行う。	・「朝食欠食」の実態を踏まえ、保護者と連携しながら相談や指導を進めていただきたい。